

人づくり まちづくり 情報誌

No.

84

令和8(2026)年
9月発行

あくていぶ



わがまちたかつき
切り絵紀行

「神峯山寺 あき色の社務所」

いくち たかよし
切り絵 作：生地 高芳(高槻市在住)

特集

高槻から未来へ向かって平和を発信!

「あくていぶ」は行動的、活動的な心と心のふれあいを求めて名づけられました

このまち、見つけた！
あちこち訪問

日本玩具博物館

一旦戦争が始まると、人々の暮らしに制限が加えられるようになり、戦争に勝つことを第一の目的とした生活に切り替えられていきました。

子どもたちの教育や暮らしも例外ではなく「遊び」までも戦争の影響が及んでいました。

今回は、そんな子どもたちの「戦時下の玩具や遊び」をテーマに日本玩具博物館を訪れました。



日本玩具博物館

〒679-2143 姫路市香寺町中仁野671-3

電話番号：079-232-4388

開館時間：10時～17時

休館日：水曜日（祝日は開館）12月28日～1月3日

入館料：一般800円、高・大学生500円
こども（4才以上）300円



ご案内頂いた
当館学芸員の尾崎織女さん

青空に新緑の山々が良く映える中国道を西へ、播但道からさらに姫路市街地に入り、田園風景が広がる中、白壁土蔵造りの建物「日本玩具博物館」がありました。現館長の井上重義さんが1963年から全国を歩いて集めた玩具を含め、世界160カ国約9万点の資料を所蔵。個人が所蔵した博物館としては日本一の規模を誇っています。

当日は約6,000点の玩具を見ながら、日本近代玩具の歴史、とりわけ戦時下の玩具についての話をいただきました。

（画像提供：日本玩具博物館）



「キンダーブック」に描かれたヘイタイゴッコ

1931年の満州事変から、1937年の日中戦争、1941年の太平洋戦争と、日本中が戦争一色になっていったこの時代の玩具や子どもの遊びの様子は、1939年発行のキンダーブック（写真右）を見るとよくわかります。

そこには、たくさんの男の子

たちが兵隊（戦争）ごっこをして遊んでいて、その遊びの3点セットは「鉄かぶと」「ラッパ」「サーベル」です。子どもの遊びの中にも戦争が深く入っている様子がわかります。

左の写真はコリントゲームで、中国大陆を舞台にして、玉が入った所の陣をとる陣取りゲームです。陣を取るとはその都市を占領するという意味です。すでに台湾などは赤色で日本の領土になっています。これと良く似たもので大陸を鬼ヶ島に、兵隊の衣装を桃太郎にしたものもあり、昔話の中にも戦争が入っていました。



コリントゲーム
「東洋平和競技」



愛国イロハカルタ

戦時中の玩具のキャッチフレーズは「愛国」です。例えば、愛国貯金箱、愛国積木、愛国イロハカルタ（写真左）。こういったもので当時の子どもたちに遊びの中で愛国の精神を学ばせようとしていました。愛国イロハカルタ上書きに「日本玩具統制協会発行」とあり、右下には承認シールもあります。

この協会が統制していたものは玩具の材料です。戦時中、金属たるものは、玩具の細かい部品に至るまで没収され、竹や木や土で代用されていました。戦争はあらゆるものの犠牲の上に成り立っており、世界の現状を危惧するとともに、「当たり前の日常の大切さ」が深く身に染みた訪問でした。

日本玩具博物館を訪れての感想

- 遊びにも戦争色が濃くなり、国民を戦争の渦にまきこみ、生活の中に影響が深まってゆきました。今、世界各地で不安定な状況がおさまる気配がありません。私たちは平和を愛しています。戦争なんて望んでいません。世の中はデジタルやSNS情報があふれ、子ども社会も無意識のうちにゲーム等に振り回されているように思います。私たち一人一人が自分で考え、学び、判断し、そして声をあげなければ…。決して国策に利用されてはいけなかつく感じました。



二連装砲戦車にのった兵隊サン



兵隊サンイロハカルタと兵隊サンの土人形

- 入館するなり収蔵玩具の多さに圧倒されました。江戸時代から平成まで、ゼンマイ仕掛け→電動式→コンピューターへと変遷した玩具。触れることのできるセルロイドやブリキのものを手にし、うす暗くなるまで目一杯遊んだ幼少時代、買ってもらえなかつたせつなさもちょっぴり味わいながら、遠い日に思いをはせ、館内を巡りました。

- 七夕生まれの学芸員さんは、織姫や彦星をはじめとして詳しく研究されておられ、日本各地の七夕祭りの行事やそのゆえんなど興味深く識ることができました。時間に追われ、はしょった場所も心残りなので、今度は校区の研修などで、ゆっくり覗いてみたいと思うほどワークわく、ドーキどきで興味津々の訪問でした。



木製玩具・海を航行する軍艦

このひと、見~つけた!



「ひとりぼっちのいないまちづくり」

(一社) タウンスペースWAKWAK

「NikoNikoひろば」はタウンスペースWAKWAKの事業の内の一つ、日本財団子ども第三の居場所コミュニティモデル事業を通じて、子どもたちに食事、遊び、学習、多様な体験機会を提供している事業です。

一般社団法人 タウンスペースWAKWAK

おかもと こうすけ

事務局長 岡本 工介さん

昨夏、24時間テレビ「愛は地球を救う」で取り上げられた居場所事業「とんだNikoNikoひろば」。今回、この活動を高槻から発信している岡本工介さんにお話を伺いました。

ほっとけない人、つながれ!

子ども食堂は全国的にも増えていて、約12,600カ所(むすびえ調査結果2025年)になり、全国の中学校数を超えました。これは、子ども会やPTAがどんどんなくなり、自治会等の運営も難しくなる中で、地域ににぎわいをつくろうと、自発的に動き出す人たちが増えていると言えるかもしれません。今は大阪の子ども食堂も1,000カ所を超えました。大阪の「ほっとかれへん」精神の表れです。

タウンスペースWAKWAKでは2014年から学習支援わんぴーす、2016年には子ども食堂などをたちあげ、2017年「ただいま〜」と言える子どもたちの居場所づくりを始めました。コロナ禍を経て2024年からは地域・家庭・学校・行政・企業と協力しながら、NikoNikoひろばをスタートさせました。家でもない、学校でもない、でもここは自分の居場所の一つなんだと子どもたちが思える、子ども第3の居場所となることを目標としています。



具体的には月・水・金曜日に「おかえり、ただいま」の音が響く放課後居場所の提供、水曜日には夕食を提供して、孤食の解消や食育にも一役かっています。時には「わくわく食堂」という子どもから大人まで多世代でごちゃまぜに交流できる場も提供しています。

2021年10月、元内閣府参与・東京大学特任教授の湯浅誠さんからこのネットワーク準備会立ち上げの講演会をしていただいたのをきっかけに、WAKWAKがサポートに入り、高槻市内でも多くの居場所づくりのネットワークが増えていきました。子ども食堂なるものを作りたいけれど、何からどう始めたらいいかわからないという開設の支援などにも関わっています。

ミートモリタ屋さんをはじめとする市内企業や浄土真宗のお寺さんからはお米をひと握り(一合)持ち寄り「ほっとけ^{まい}米」プロジェクトが取り組まれる等、さらに支援の輪が広がっています。

湯浅誠さんの言葉で「子どもにとって居場所はたくさんあった方が良く、子どもが選べるのが良い。日本の社会は二階建ての建物に例えると、二階が行政で、一階が地域です。二階の行政の制度からこぼれ落ちた人は、地域の縁が支えていましたが、その一階の地域を支える地縁組織の維持や助け合いが年々難しくなっています。いわゆる無縁社会です。」この例えに、なるほどと思いました。

しかし、そんな社会の中で、地域のために何かしたい人も増えてきています。一階を作り直そう、人がこぼれにくい社会にしていこうという取り組みも進んできて、その動きの一つが子ども食堂と言えるかもしれません。

運営など、人不足の課題はどこでも一緒だと思いますが、やっていて良かったと思えることは、ここでは、地元の卒業生がボランティアでかわってくれたりすることです。育ったまちに戻ってきたいと思ってくれることが、本当にうれしいです。今後は広がりつつある支援の輪のその仕組みをどう作り出していけるか、高槻をモデルとして全国に広げていきたいです。



コミュニティスペース
NikoNiko
高槻市富田町3-25-3

人権週間記念事業

人権を考える市民のつどい

どんな笑いを見せてくれるか楽しみ！

第16代R-1グランプリチャンピオン濱田祐太郎さんによる
笑い与人権トークショー

日 時 令和8年12月12日（土）
13時～（開場：12時30分）

会 場 市立生涯学習センター 2階 多目的ホール

対 象 高槻市在住、通勤、通学の方

定 員 300名

申込・問合先 高槻市人権まちづくり協会

申込期間 11月4日（水）～定員に達するまで

申込方法 ①電話 647-7825 ②来所（①②は平日8時45分～17時15分）
③FAX 647-7233 ④HP（③④は毎日24時間）

保 育 あり（3歳以上未就学児 5名まで）
要事前申込（参加申込と同時に名前、お年を添えて）
申込み切：12月4日（金）または定員に達するまで



手話通訳
要約筆記
あり

要事前
申込

みんなで楽しもう 絵本ライブ

令和8（2026）年6月13日（土）14時、市立生涯学習センター多目的ホールに絵本作家、長谷川義史さんをお迎えしました。絵本の読み聞かせ、その絵本にまつわるお話や歌を聴かせていただき、訪れた約300名の子どもから大人まで、みんなが楽しめる絵本ライブになりました。

長谷川さんの絵本ライブに参加して、印象に残ったお話や歌を紹介します。



満員御礼の参加者は
ステキな世界へ引き込まれました

朗読「おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん」から、長谷川さんのメッセージ。



大胆でユーモラスな絵は
子どもから大人まで大人気

このおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんは、ひいひいひいおじいちゃんのことです。

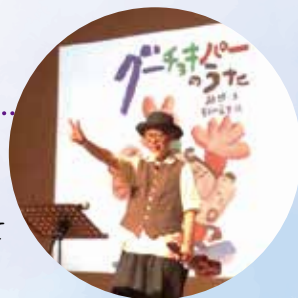
「ひい」は1人の人生です。みんなもそう。他の人も重要な大切な命です。だから人の命を奪ってはいけないのです。でも、国どうしの戦争は今もやっています。この国は戦争をしません。戦争を放棄しました。それをしっかりもっていないと、またそっちの方へ行ってしまうかもしれません。

人権、自分の権利、例えば自由を認めてもらうためには、まず、自分以外の人の自由を認めることです。すると、それは自分へと返ってきます。まず、認めること。そうすれば、自由で平和でいられます。ええこと言ってしまいました。

歌「グー チョキ パー」を会場みなさんといっしょに歌いましょう。

♪グーよりつよいのは？ パー パーよりつよいのは？ チョキ
チョキよりつよいのは？ グー みんなつよくて みんなよわい
♪グーよりよわいのは？ チョキ チョキよりよわいのは？ パー
パーよりよわいのは？ グー みんなよわくて みんなつよい
みんなつよくて みんなよわい みんなよわくて みんなつよい みんなちがって みんないい
「みんな平等なんや」

グー チョキ パー
の歌は
会場と一体となって
大盛り上がり



参加者の 感想から

- 絵本を数多く読んでもらい楽しみました。内容の裏にあるメッセージを直接聞けてよかった。平和の絵本を手にとって深めていきます。知るきっかけになり、ありがとうございました。
- 笑いあり、感動あり、歌あり、あっという間の講演会でした。にじみ出るお人柄から平和へのメッセージがまっすぐ届いてきました。最後の「グー チョキ パーのうた」に人権が詰まっていた良かったです。



コラム

「6EQUJ5（シックス・イー・キュー・ユー・ジェー・ファイブ）」の謎

新聞を読んでいたら「6EQUJ5」についての記事がありました。この文字列は1977年8月15日にアメリカ・オハイオ州立大学の電波望遠鏡が観測した、非常に強力な約72秒間の宇宙電波信号の強度を表すものです。それを見た天文学者が、その異常な強度に驚き、紙に「Wow!」と書き込んだことから「ワオ信号」と呼ばれています。それは、何かの天文現象か、宇宙人からのメッセージか、多くの科学者が解明に挑みましたが、今のところは謎のままで解明されていません。この電波がいつか解明され、本当に宇宙人からのメッセージだったとしたら夢が広がりますね。しかし、8月15日に「ワオ信号」が届いたということは、いつまでも地球人どうしてミサイルやドローンの打ち合いをして、争っている場合ではありませんよ」という宇宙人からのメッセージかもしれませんね。

人権啓発指導員 藤澤 善富



第40回 平和展



令和8(2026)年8月6日(木)、7日(金)の両日にわたり、高槻市生涯学習センターにて平和展を開催しました。2日間で約1,500人も多くの皆様に参加していただきました。とりわけ、今年は子どもたちの参加が多くみられました。戦争の悲惨さ平和の大切さを次の世代に受け継いでいくうえで、とても大切なことです。

今回の平和展では「戦時下のマイホームタウン高槻と暮らし」をテーマに、戦争があった時代の高槻の様子のパネル展示や、当時の高槻の人々が実際に使っていたものを展示しました。その他にも、核兵器と戦争に関する16の問い展、てづくりおもちゃ、平和の木のメッセージ、平和折り鶴、つるちゃんの街頭紙芝居等の様々なコーナーが設けられ、大変にぎわいました。



てづくりおもちゃは子どもたちに大好評！



つるちゃんの街頭紙芝居は迫力満点！

参加者の声

- しらないことや、てづくりのおもちゃがたくさんしれて、とてもうれしかったよ。(10歳未満)
- 戦争時の物の展示がとても良かった。その時代の実物などをさわってもよくしてくれていて、興味をもって戦争を感じられた。子どもに戦争、平和を伝えられる手段となった。おもちゃや木の葉のメッセージ等、参加型のもので楽しみながら戦争・平和を学べる、知れる、とても良い展示だった。(40代)
- 本日は8/6広島原爆の日です。朝の式典をTVで拝見し、平和展に足を運びました。いつまでも今の平和が続きますよう、孫たちの未来が明るい未来でありますよう。(60代)

平和の木は、みんなの平和への
葉っぱメッセージでいっぱいこ！



人権連続講座を開催します

参加費
無料

手話
通訳
あり

要約
筆記
あり

第1回

10/2
14時～



つむら かおる
津村 薫さん

フェリアン副所長

ストレスとの上手なつきあいかた

自分を大切にすることは、他者を大切にすることにも繋がります。ストレスについて知り、自分のストレス反応に気づき、ストレス対処法を学ぶことで、自分の心身を整えましょう。

第2回

10/9
14時～



すぎはら くにお

杉原 久仁子さん 桃山学院大学 社会学部 ソーシャルデザイン学科 教授

認知症とともにどう生きる

認知症は誰がなってもおかしくない病気です。認知症と診断を受けた人が社会で暮らしているのが当たり前になるよう、認知症との付き合い方や、本人の意思が尊重される地域づくりを一緒に考えていきましょう。

第3回

10/16
14時～



あやべ たかこ

綾部 貴子さん 梅花女子大学 文化表現学部 情報メディア学科 教授

よく聞く8050問題とは

最近よく耳にする「8050問題」についてご存知でしょうか。この問題の本質を学び、みんなで支援を考えませんか。

第4回

10/23
14時～



しらすか たくま

白阪 琢磨さん 国立大阪医療センター 特別顧問・感染症内科 医師

正しく知ろう、感染症の今と昔

感染症との戦いの歴史は古く、人の繁殖と共に病原体は進化を繰り返してきました。現代社会でもHIV（エイズ）やCOVID-19（コロナ）のように身近な脅威であることには変わりありません。感染症を正しく学び、共生社会を実現していきましょう。

第5回

10/30
14時～



こたに まさと

小谷 正登さん 関西学院大学 教職教育研究センター・文学研究科 教授

睡眠を取り戻そう ～生存権の視点から～

24時間型社会に変貌した日本は、全世代にわたって「睡眠不足大国」として知られています。人生100年時代を自分らしく過ごすために、眠りを人権の視点から意識してみませんか。

■会 場 クロスパル高槻（総合市民交流センター）702会議室

*JR高槻駅中央改札口出て南側すぐ

■定 員 各回100名（要事前申込）

■申込期間 令和8年9月4日（金）～各回定員に達するまで

■申込方法 ①来所 ②☎647-7825

③FAX647-7233 ④ホームページ

（①②平日8時45分～17時15分、③④毎日24時間受付）

お友だち追加をお願いします！

映画会・講座
などの素敵な情報を
いち早くお届け
します。



編
集
後
記

高槻に住んで半世紀以上になる。便利で環境良く、子育てにも最適、大好きな街だ。

しかし、今年に入り、二度もカラス被害にあってしまった。私にとって、自転車は生活の必需品。駐輪場にわずかな時間、置いている間に、自転車がごの中身をさらわれてしまった。外から中身は見えないように袋をかぶせていたのに…。自分の不注意を猛省しつつ、最近は自転車の青色キップなるものにもおびえ、どこを走ったらよいのか迷いながら、空から狙うカラスに「大事なおかずを返せ！ 弱い者いじめをするな！」と、叫びたい。

編集発行／一般社団法人 高槻市人権まちづくり協会（☎647-7825）

「あくていぶ」は協会ホームページからご覧になれます。

<https://www.takatsuki-jinmati.org/> 高槻市人権まちづくり協会 検索

Follow
Me!!



Instagram
takatsuki.jinmati

